令和７年度　三股町立長田小学校　自己評価書・学校関係者評価書

【自己評価及び学校関係者評価の評価方法　　４段階　４：期待以上　３：ほぼ期待通り　２：やや期待を下回る　１：改善を要する】

重点努力事項		評価項目	学校自己評価 児童	保護者	職員	評価	評価内容 ○成果　●課題	学校評議員(学校関係者)評価 評価	意見
積極的な生徒指導の展開と豊かな心の育成	なかよくできる子	１　時と場に応じた返事、あいさつの習慣化 児童には、返事やあいさつなど、基本的生活習慣が身に付いている。	3.5	3.5	2.9	3.4	●　あいさつについては、児童及び保護者と職員の認識に差がある。自分から進んで挨拶やはっきりとした返事をする児童がさらに増えるよう全職員で共通理解をして取り組んでいく。 ○●　教育相談については、毎月、アンケートを行い、相談の時間設定をしている。個々の児童の話をじっくりと聞きながら対応することができている。一方で、困っていることをうまく相談できない児童もいるため、引き続き、職員と児童、児童同士、職員と保護者のよりよい関係づくりに努めるとともに、SOSの出し方の教育等にも力を入れていく必要がある。 ○　きまりを守る態度は、全体的に身に付いており、きまりの必要性や守る意義について確認するとともに、高学年を中心に「長田小よい子のきまり」の見直しも進めている。 ○　思いやりのある言葉づかいについては、全校でソーシャルスキル学習に取り組んだり、児童会を中心にあたたかい言葉掛けを広げる活動に取り組んだりして、意識の向上を図ることができた。 ○　様々な行事や清掃活動等での異学年交流を通して、リーダーシップとフォロワーシップが育ちつつある。職員側からは、更なる育成をめざしていきたいとの思いがあり評価が低めである。	3.3	・毎朝子ども達を見送っている。とても素直でかわいい。あいさつは、児童によって差があるが、同じ声で一律に同じようなあいさつを目指すのではなく、昨日と違ったその子のあいさつを見つけて伸ばして欲しい。大人も児童に元気にあいさつをすることで、あいさつの習慣を身に付けさせたい。 ・先生方は教育相談によく力を入れて、一人ひとりの児童に寄り添って対応されている。今後、SOSの出し方の教育に力を入れていくということから、先生方の児童への思いと向上心を感じる。子どもは自分からなかなか言えないこともあるのでアンテナを広げて情報収集に努めて欲しい。 ・一番大事なことは、子ども同士仲が良いこと。保護者も仲良くよい関係を築けているかが大事なことではないか。 ・各行事、全校児童で行っている長田小の取組は、今後も続けて欲しい。
		２　きまりを守る態度の育成 児童には、きまりを守る態度が身に付いている。	3.4	3.3	3.3				
		３　言語環境の整備（言葉づかい） 児童には、相手を思いやる心や適切な言葉を使おうとする態度が育っている。	3.3	3.5	3.1				
		４　早期発見と見届けを大切にした教育相談 教育相談や日々のふれあいを通して、児童は安心して学校生活を送っている。	3.5	3.8	3.5				
		５　リーダーシップとフォロワーシップの育成 異学年交流を通して、上学年のリーダシップを育成すると共にその姿を見て下学年が育っている。	3.6	3.7	3.3				
「ひなたの学び」の推進による確かな学力の向上と定着	がんばりぬく子	６　「ひなたの学び」の推進 友達と話し合ったり協力し合ったりする学習や個に応じた指導を通して、児童には、基礎的な学力や考える力が身に付いている。	3.4	3.5	3	3.2	○　友達と話し合ったり協力し合ったりする学習に取り組みながら、自分の考えを発信したり友達の考えを取り入れたりできる児童が増えてきた。「ひなたの学び」をさらに推進し、学力向上を図る。 ○　ICTについては、職員も積極的に授業に取り入れており、児童の活用する力も身に付いてきている。研修等を工夫して、更なる職員の指導力の向上も図りたい。 ○●　毎月、朝の読み聞かせをしていただいたり、町立図書館の本の借用をしたりして読書活動の推進をしているが、読解力や表現力に結びつくまでは十分とはいえない。読書活動の目的や貸出冊数の目標値を明確にし、読解力等の育成のための取組を改善していく。	3.0	・ICTについては、聞くだけではなく、見て把握できたり自分達で活用したりして、楽しく学べるので、学力向上が期待できる。一方で、調べものをする場合に、理解できないまま答えにたどり着くこともあるので、発表時に読むだけで内容を理解せずに発表していることがあると思われる。理解までたどり着く習慣を付けたい。学級の雰囲気に知的なものが欲しい。 ・朝の読み聞かせは、本にふれる良い機会となっている。読み聞かせボランティアや保護者は大変だと思うが、月１回でも良いので継続して欲しい。 ・先生の話を理解できていない子どもが増えているように思われる。家庭でも、普段の会話で親が言っていることを子どもが理解できているか確認して欲しい。
		７　ICTの活用 児童は、タブレットPC等を活用した学習に積極的に取り組むとともに活用する力が身に付いている。	3.7	3.4	3.2				
		８　読書活動の推進 読書活動（読み聞かせ、授業で扱う図書、図書貸出含む）を通して、児童には、読解力や表現力が身に付いている。	3.2	3.2	2.4				
健康教育の推進と体力向上	たくましい子	９　保健学習、保健指導、食育の充実 病気の予防やけがの防止などについての日常的な指導を通して、児童は、健康的な生活習慣が身に付いている。	3.4	3.4	3.3	3.3	○　授業、校内放送、委員会活動の取組、日常的な指導を通して、病気の予防やけがの防止等への意識が高まり習慣が身に付いている。 ○　「早寝･早起き･朝ごはん」「アウトメディア」については、長期休業明けの取組カードや保健だより等で啓発できた。むし歯治療率は８１．８％と高い。メディアについては、メディア安全指導員を講師に招いて学校保健委員会で講演会を行う予定。今後も啓発や情報提供をするとともに、協力を呼び掛けていく。 ○　持久走、縄跳び等は、月間を設定して業間でも取り組んだ。個々の目標設定をさせながら体力の向上を図ることができた。	3.3	・保健・給食・体力作りなど、習慣づくりに努めていると思う。 ・むし歯治療率が低いと言われる中、高めなのは、学校での取り組みが反映された結果だと思う。 ・持久走の取組はよい。今のやり方であれば、外周を走っていた大会より、走ることが苦手な児童も取り組みやすいと思う。
		10　健康的な生活習慣の定着に向けた指導 「早寝･早起き･朝ごはん」「むし歯治療」「アウトメディア」について保護者に啓発しており、協力の呼び掛けをしている。	3.2	3.4	3				
		11　体力の向上 体育の授業や運動会、持久走、縄跳び等の指導を通して、児童の基礎的な体力が向上している。	3.5	3.6	3.2				
家庭・地域との連携	地域	12　地域に根ざした世代間交流活動の積極的な展開 地域の方との交流を図った活動を通して、児童は、地域のよさや地域の方とふれあうよさを感じることができている。	3.4	3.3	3.4	3.5	○　米作り体験やグラウンドゴルフ、保育園児との交流、保育園児との合同運動会に加え、今年度は、地域の方の協力を得ながら収穫祭を行った。会話をしながら活動を行ったり教えていただいたりしながら、地域の方とふれあうよさを感じることができている。今後は、感謝の気持ちの伝え方も工夫していきたい。 ○●　各種便り等により、定期的に教育活動を発信することができている。児童の中には、通信等を渡すのを忘れていたという回答あったため、指導を行うとともに配付物の確認の協力もお願いしていきたい。 ○●　ＰＴＡ活動については、学校の教育活動への直接の協力のみならず児童、保護者、職員を繋ぐレクリエーション的な活動まで幅広く協力いただいており、児童の育成のみならず保護者の繋がりの一助にもなっている。一方で、負担を感じるという意見もあるため、さらによりよいPTA活動のあり方を模索していく。	3.5	・地域の力を十分に学校に取り入れていると思う。 ・地域・保育園との交流が多く、連携のよさを感じる。長田分園児との交流は、今後もっと活発に行うと良いかと思う。 ・グラウンドゴルフ、がね作り等、長田地区の方と行うことは良いことだと思う。今後も喜んで参加したい。 ・PTA同士の交流の在り方を考えたい。親同士の交流が増えると、子ども達の関係をより良いものにしていけると思う。
	学校	13　学校の教育活動の発信 学校だより、保健だより、学級通信、ホームページなどで教育活動を発信しており、家庭や地域への理解や協力が図られている。	3.3	3.5	3.4				
	家庭	14　家庭や地域と一体となった児童の健全育成 PTA活動は、児童の健全育成に繋がっている。	3.6	3.6	3.9				